



interview Vol.10

東京土木施工管理技士会

優良技術者インタビュー

土木技術者の日頃の研究・研鑽を称え、技術者表彰規程に基づき、優良技術者の表彰を毎年行っています。今年度受賞された寛さんに、この業界をめざしたきっかけや都市土木の難しさについて伺いました。



西松建設株式会社
寛 哲志さん

(関東土木支社虎ノ門地下通路出張所副所長)

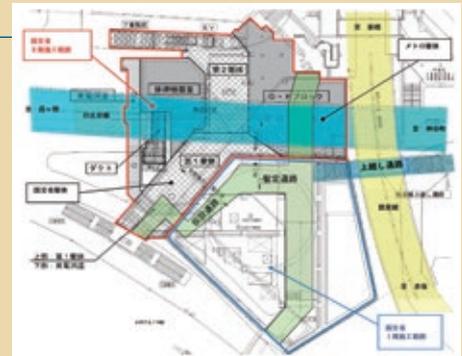


受賞

R3虎ノ門地下歩道その4工事

主な工事内容

国道1号(桜田通り)と都道405号(外堀通り)の交差点直下に、広く歩きやすい快適な歩行空間を創出するための地下歩道を整備する工事。関連して東京メトロ銀座線の躯体や東京電力の電力ケーブルを通す洞道なども合わせて施工する。2016(平成28)年に始まったその2工事から2023(令和5)年に完了したその4工事まで、様々な地中障害への対応、周辺他工事との調整を重ねながら工期を全うし、歩行者の安全性向上と地下鉄駅の利便性向上を期待した工事である(地下歩道工事自体は継続中)。



地下1階平面図 (提供: 西松建設(株))

家族旅行で見学した「くろよん」に 圧倒され土木の世界を志すように



出身は三重県で、中学生の頃に家族旅行で黒部ダムを見に行きました。そのスケールの大きさに圧倒されて、漠然と建設業界に興味を持ったのが始まりです。その時は工事の苦労だとか大変だろうとかは考えず、「こんなところにこんな大きなものをつくれるんだ」と驚き感動したのを覚えています。子どもの頃、つくり方もわ



(提供: 寛哲志氏)

からないのにピラミッドに憧れたりすると思いますけど、それに近いですね。

高校の化学の授業で、元素記号とかを習いますが、どうも見えない世界でピンと来ない。やはり仕事にするなら目に見えるものの方が性に合っていると思い、大学では土木工学を専攻しました。就職の際は同じ建設業界でコンサルタントを考えたこともありましたが、デスクワークよりも、現場という最前線で達成感を味わいたいという思いが強く、今の会社に入社しました。

入社後は山岳トンネルの現場を2か所、それ以外は都市土木の現場を多く経験しました。くろよんを見学したことが建設業界を目指したきっかけでしたけど、まだダム現場に配属されたことはないですね(笑)。

地下の空間を広げるための工事 様々な規制・制約に対応



この事業の目的は、地下の共同溝の上の部分をも有効活用し、既設虎ノ門駅地下通路に直結させた地下歩

道等を整備するものです。当社で担当したのはその地下歩道を既存の駅に接続する部分です。既に次の工事に引き渡したので、完成まであと少しです。

都市土木工事の難しさは、同じ市街地でも場所によって気を遣わなければならないことが変わってくる、ということです。長年やっていると、いろいろな想定ができるようになります。図面上は埋設物がないがそれを鵜呑みにしない方がいいとか、「ここに埋設物がある」と書かれていても周辺状況を見て「埋設位置が違う?」と感じ取れる、そういう感覚は備わってきますね。その現場が何を気にしているかでこちらの対処も変わるので、前の成功体験が別の現場では通用しないということも日常茶飯事です。ここは虎ノ門なので周辺はオフィスや官庁ばかりですが、これが住宅地であれば優先事項が全然異なることもあると思います。

今回の工事で言えば、東京メトロ日比谷線と銀座線のすぐ近くでの地下工事になります。電車が運行中の時間帯も工事自体はできますが、それは地下鉄躯体から離れている作業に限定されます。躯体に近接する工種は終電から始発までの時間帯に限られますし、離れていても工種によっては終電後でないと作業ができない、というように工種毎に細かい制約条件がありますが、効率的な工程進捗を実現するため、関係各社との協議に尽力しました。

それと、ここは他にも工事をやってるエリアになりますので、別の工事関係者との調整もあります。例えば地上の工事をやる際、こちらは下り側で車線規制して作業をしたい時に、上り側でも作業したい会社があったとします。そうなると、規制する車線がクランクする形に



(提供：西松建設(株))

なってしまうので、どちらかがもう一方に合わせて作業箇所を変えなければならない。そういう調整ごとにも数えきれないくらいあり苦勞しました。

休日は飲食で気分転換 友人と旧交を温める



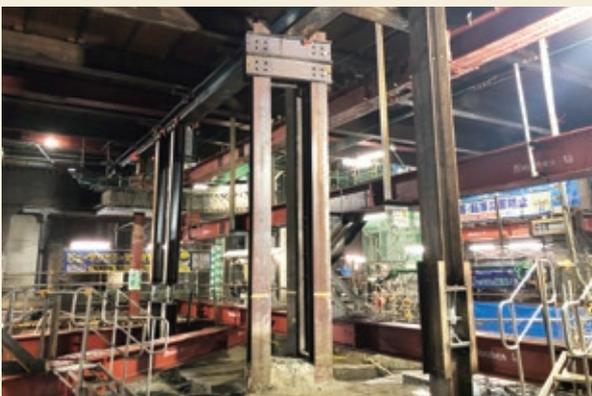
最近では仕事関係以外の人とも会うようにしていますね。休日は一緒に美味しいものを飲み食いして過ごしています。そんな時間が良いリフレッシュとなっています。

経験を後進に伝える機会が減少 「いい仕事をした」と思われるために



土木は経験工学と言われますが、最近では自分自身はその事態にリアルに直面して対処法を身につける、そうやって仕事を覚える機会が少ないなと思います。こればかりは人から聞いたり動画を見たりしても習得できない。現場で音や温度、匂いを感じて何に気付くべきかがわかっていくものです。ですが、少人数体制で世代間の隔たりもある中、こうやるのだと直接伝えられないのは悩ましいところです。

今後の抱負は、いい仕事をしてと思われる存在になることです。発注者や利用者の方に「つくってくれてありがとう」と言われたいのはもちろんですが、後輩たちには「この人いい仕事するな、この人みたいになりたい」と我々が思わせて、働きぶりに魅力があると感じてもらいたいです。そのことは普段から意識していて、仕事への姿勢や建設業の素晴らしさを伝えていくことが担い手不足の解消にもつながっていくと考えています。



(提供：西松建設(株))